2024年2月号　No.7

JADM NEWS LETTER

Japanese Association for Disaster Medicine　一般社団法人 日本災害医学会

CONTENTS

表紙：学術集会ポスター …… 1
令和6年能登半島地震発生に際して …… 2
第29回日本災害医学会総会・学術集会に向けて …… 2
会長講演・特別講演・特別企画 …… 3
単位取得可能なセッション一覧 …… 4
企画運営委員・プログラム委員紹介 …… 7
優秀論文賞・優秀査読者紹介 …… 7
秋田市水害対応 …… 7
学生部会活動報告 …… 9
編集委員会関連：抄録など …… 10
編集後記 …… 12

■令和 6 年能登半島地震発生に際して　日本災害医学会　声明文

この度の令和6年能登半島地震により、お亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災され、現在も不安な日々を過ごされている皆様に心からお見舞い申し上げます。

新年を迎えられたその日に、能登半島を中心とした石川県その他の地域で、最大震度7を記録した地震が発生し、多くの方々が被災されました。特に能登地域では、現在もインフラが充分に整わず、生命や健康に対して不安を感じながら過ごされている方々が残っておられます。

本学会員もDMAT、DPAT、日本赤十字、JMAT、AMAT、災害支援ナース等として、発災当日より被災地に赴き、支援を開始いたしました。被災地では、地元の方々をはじめ、被災地に駆けつけ支援にご尽力されている多くの機関と連携して活動を続けております。一方でこれらの活動は、派遣者が不在となり減員された体制の中でも、各地域の医療が正常に維持できるよう支えていらっしゃる皆様のご尽力なしには成り立つことが出来ません。今回の災害に対し、我が国の医療機関がまさに一丸となって支援に取り組んでいることを痛感し、被災地で支援されている皆様、そして各地域の医療機関を支えている皆様に、心より深く敬意を表します。

1日でも早く安心した生活が取り戻せるよう、我々が研究や教育、学術集会を通して蓄えた知識・技能を活かして、相互に連携しながら組織的に活動し、被災された皆様、そして、それぞれの現場において支援されている全ての皆様の命と健康を守ることに努めてまいりたいと考えております。

一般社団法人　日本災害医学会
代表理事　本間　正人

■第 29 回日本災害医学会総会・学術集会に向けて

第 29 回日本災害医学会総会・学術集会
会長
髙階　謙一郎
京都第一赤十字病院
救命救急センター長
基幹災害医療センター長

はじめに、この度の能登半島地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、ご遺族の皆様にお悔やみを申し上げるとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。会員の皆様におかれましては、災害支援活動や後方支援等日夜ご尽力されていることと存じます。

さて、現在予定している第29回日本災害医学会総会・学術集会もいよいよ今月になりました。本学術集会のテーマは、「叡智の結集～すべては被災者のために～」です。災害時には多くの機関・団体が力を合わせて対応しなければなりません。それぞれが持つ叡智を本学会で結集し、今後のより良い連携につなげることができればと考えます。本学術集会が京都で開催されるのは初めてであり、京都らしい特別講演も用意させていただきました。今回の学術集会では特別講演3講演、特別企画16企画、シンポジウムやパネルディスカッション等の主題関連が53セッション、一般演題口演53セッション、ポスター発表45セッション、その他にも委員会企画や各種セミナーなど多くの演題を登録いただきました。さらに、DPAT10周年記念セッションや避難所・避難生活学会など他学会とのコラボ企画も用意しています。超急性期から復旧・復興に至るまで、災害拠点病院から在宅まで幅広い分野における各団体の活動、さらには陸海空自衛隊など救助の叡智や世界の中の日本という視点から国際支援や海外からの受援のあり方についても議論する予定です。

コロナ禍でしばらく開催が見送られていた会員懇親会を開催する予定でしたが、諸般の状況により中止し、代わりに能登半島地震緊急報告会を計画しました。まだ災害支援活動が継続している最中ですが、皆様と今回の地震について情報共有の機会を設けたいと考えています。詳細はHPをご確認ください。

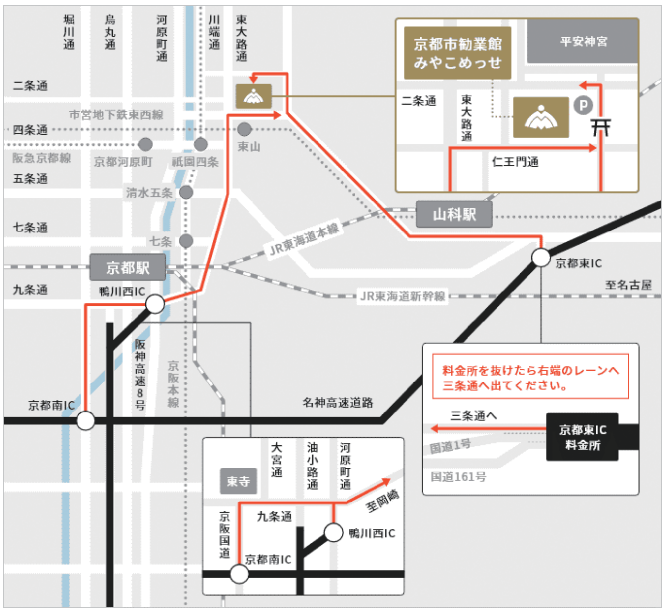
「叡智の結集」皆様と一堂に会し、有意義な学術集会となるように引き続き鋭意準備を進めてまいります。災害時ではありますが万障お繰り合わせの上多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。そうだ京都いこう！

■学術集会概要

会　　期　　2024年2月22日(木)～24日(土)
会　　場　　みやこめっせ（京都市勧業館）
テ ー マ　　叡智の結集―すべては被災者のために―
会　　長　　髙階　謙一郎
（京都第一赤十字病院 院長特任補佐 救命救急センター・基幹災害医療センター長）
副 会 長　　池田　栄人
（京都第一赤十字病院 院長）
松井　道宣
（京都府医師会 会長）

HP：https://site2.convention.co.jp/29jadm/

学術集会HP QRコード



全員懇親会に参加申込いただきました皆様へ

学術集会ホームページで既にご案内の通り、能登半島地震をうけ、全員懇親会は中止と決定させていただきました。
つきましては、全員懇親会参加費6,000円を参加費お支払いのときにご使用いただきましたクレジットカード宛に返金させていただきます。
詳細は対象者へ個別でご案内させていただいておりますのでご確認をお願いいたします。

■会長講演・特別講演・特別企画

*2024年1月上旬時点の情報です。最新情報は学術集会HPをご確認ください。

第1日目　2月22日木曜日

第1会場

9:10～9:40　会長講演
叡智の結集 すべては被災者のために
髙階謙一郎（京都第一赤十字病院 院長特任補佐 救命救急センター・基幹災害医療センター長）

9:50～10:50　特別講演①
文化講演～妙心寺退蔵院～
災害と日本人の死生観
松山大耕（妙心寺退蔵院）

第2会場

17:50～18:50　特別企画①
「耐震で大丈夫ですか？」防災学術連携体共同企画

第4会場

17:20～18:20　特別企画②
DWATセッション

第7会場

11:00～12:00　特別企画③
サイバーセキュリティと災害

第２日目　２月23日金曜日

第1会場

9:00～10:00　特別企画④
代表理事の叡智

10:10～11:40　特別企画⑤
災害2023（秋田豪雨災害）

13:50～14:20　特別企画⑥
日本医師会会長講演

14:20～16:20　特別企画⑦
WHO・日本災害医学会合同セッション

16:30～18:00　特別企画⑧
WADEM（世界災害救急医学会）2025 in Tokyoの展望

第2会場

14:20～15:50　特別企画⑨
G7広島サミット

16:00～17:30　特別企画⑩
コロナ総括1： 新型コロナ感染症災害の本質と今後の対策

第6会場

14:20～15:20　特別講演②
関東大震災100年「温故備震」～日本赤十字社の記録から辿る災害救護の原点
大西智子
（日本赤十字社広報室赤十字情報プラザ参事）

第３日目　２月24日土曜日

第1会場

10:00～11:10　特別企画⑪
「南海トラフ地震」～つなぐ議論のバトン～
2ndメッセージ“南海トラフ地震における支援県の役割について”

12:40～14:10　特別企画⑫
我が国の健康危機管理センター創設に向けて～オールハザード叡知の結集への挑戦

14:20～15:50　特別企画⑬
コロナ総括2：新型コロナ災害のレガシー

第2会場

9:40～11:10　特別企画⑭
20年後の災害

12:40～14:00　特別企画⑮
日本赤十字看護大学附属災害救護研究所の活動

14:10～15:10　特別企画⑯
ISUTの取組と災害医療

第6会場

10:10～11:10　特別講演③
祇園祭の歴史について
橋本章（京都文化博物館学芸課）

■第29回日本災害医学会総会・学術集会における『社会医学系分野に関連する講習』について

※プログラムの開催日時は変更となる場合がございます。最新情報は学術集会HPをご確認ください。

社会医学系専門医・指導医の更新に必要な要件のうち、『社会医学系分野に関する講習』につきましては、本学術集会の以下のセッションが認定されております。奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

【社会医学系専門医（指導医）講習会】
日時：2月23日(金)8:00～9:00
会場：第8会場（みやこめっせ　B1階　特別展示場A）

【共通講習（感染症）】
・パネルディスカッション「災害時の感染対策と組織連携を考える」
日時：2月22日(木)15:40～17:10
会場：第4会場（みやこめっせ　B1階　日図デザイン博物館①）

・特別企画「コロナ総括1：新型コロナ感染症災害の本質と今後の対策」
日時：2月23日(金)16:00～17:30
会場：第2会場（みやこめっせ　1階　第2展示場　D）

・特別企画「コロナ総括２：新型コロナ災害のレガシー」
日時：2月24日(土)14:20～15:50
会場：第1会場（みやこめっせ　3階　第3展示場　A）

【共通講習（医療倫理）】

・共通講習（医療倫理／倫理委員会）

日時：2月23日（金）9:20～10:20

会場：第8会場（みやこめっせ　3階　第3展示場　A）

・教育講演「世界の宗教と死生観」

日時：2月23日（金）15:20～16:20

会場：第8会場（みやこめっせ　3階　第3展示場　A）

【共通講習（医療安全）】

・教育講演「患者安全における心理的安全性：よりよいチームパフォーマンスの必要条件」

日時：2月24日（土）14:20～15:20

会場：第7会場（みやこめっせ　B1階　第1展示場　B）

【選択受講項目（K単位講習）】

日にち	時間	会場	セッション名
2月22日（木）	10:30～12:30	第9会場	シンポジウム05 災害時のトラウマティックストレスとその対応
	11:00～12:30	第1会場	パネルディスカッション01 叡智の結集：行政機関
	11:00～12:30	第2会場	パネルディスカッション03 富士山噴火
	11:00～12:20	第4会場	シンポジウム02 叡智の結集：自助・共助を進めるために
	11:00～12:00	第5会場	教育講演01 人材育成
	11:00～12:30	第6会場	パネルディスカッション09 多数熱傷患者への対応
	11:00～12:00	第7会場	特別企画03 サイバーセキュリティと災害
	14:00～15:30	第1会場	パネルディスカッション02 災害医療ロジスティクスから考える籠城支援と対策
	14:00～15:30	第4会場	パネルディスカッション06 国外からの受援体制を考える
	14:00～15:30	第5会場	パネルディスカッション08 叡智の結集：小児周産期リエゾン（委員会企画）
	14:00～16:00	第9会場	シンポジウム06 救援者・支援者のメンタルヘルスサポート
	15:40～17:10	第7会場	パネルディスカッション11 叡智の結集：在宅（診療所・訪問看護等）
	16:00～18:00	第9会場	シンポジウム07 DPAT設立10周年～DPAT活動の答え合わせ～
	16:30～18:30	第1会場	シンポジウム01 叡智の結集：災害関連学会
	17:20～18:50	第6会場	シンポジウム04 叡智の結集：保健医療福祉調整本部
	17:20～18:50	第7会場	パネルディスカッション12 叡智の結集：病院避難
2月23日（金）	8:30～10:00	第4会場	パネルディスカッション15 クライシスコミュニケーション
	8:30～10:00	第6会場	シンポジウム08 叡智の結集：国内災害対応チーム
	10:10～11:40	第1会場	特別企画05 災害2023（秋田豪雨災害）
	10:10～11:40	第2会場	パネルディスカッション14 実災害時の避難所支援におけるBHELPの活用
	10:10～11:10	第5会場	パネルディスカッション20 トルコ大地震（JADM国際委員会企画）
2月23日（金）	10:10～11:40	第6会場	パネルディスカッション23 大規模災害時のドクターヘリ運用　その課題と解決に向けて①
	10:10～11:40	第7会場	パネルディスカッション26 積雪寒冷期の災害対応と避難支援
	10:40～11:40	第8会場	教育講演05 災害医の医療職の健康影響
	14:20～16:20	第1会場	特別企画07 WHOセッション
	14:20～15:50	第2会場	特別企画09 G7広島サミット
	14:20～15:30	第5会場	パネルディスカッション21 『来るべき大災害への備え、クラッシュ症候群を考える：多職種連携』
	14:20～15:20	第6会場	特別講演2 赤十字の歴史
	14:20～15:50	第7会場	パネルディスカッション27 南海トラフ地震
	14:20～15:20	第8会場	教育講演06 災害時における人権について
	15:20～16:50	第6会場	パネルディスカッション24 外国人対応
	15:40～16:40	第5会場	パネルディスカッション22 多職種連携の叡智　災害対応時の連携の実際
	15:50～17:10	第4会場	パネルディスカッション18 検死・検案
	15:50～16:50	第7会場	パネルディスカッション28 叡智の結集：災害時における難病・希少疾患対策
	16:30～18:00	第1会場	特別企画08 WADEM（世界災害救急医学会）2025 in Tokyoの展望
	16:30～18:00	第8会場	パネルディスカッション29 BCP研修を考える（BCP研修委員会）
	17:00～18:00	第6会場	教育講演03 災害法律
2月24日（土）	8:30～10:00	第10会場	シンポジウム13 避難所・避難生活学会1　タイムライン防災―事前減災への行政の取り組み
	8:30～10:00	第1会場	シンポジウム09 医療コンテナの活用と課題
	8:30～10:00	第4会場	シンポジウム10 叡智の結集：災害研究機関
	8:30～10:00	第5会場	パネルディスカッション33 叡智の結集：四師会（医師会・歯科医師会・薬剤師会・看護協会）
	8:30～10:00	第6会場	パネルディスカッション34 国民保護における災害医療の役割
	8:30～9:30	第7会場	パネルディスカッション36 大規模災害時のドクターヘリ運用　その課題と解決に向けて②
	9:40～11:10	第2会場	特別企画14 20年後の災害
	9:40～11:10	第7会場	シンポジウム12 学会主導研究中間報告会（学会主導研究委員会）
	10:00～11:30	第10会場	パネルディスカッション17 避難所・避難生活学会2　新たな国土強靭化基本計画―避難生活における災害関連死の最大限の防止
	10:10～11:10	第4会場	パネルディスカッション30 災害時の血液供給
	12:40～14:10	第1会場	特別企画12 我が国の健康危機管理センター創設に向けて～オールハザード叡知の結集への挑戦
	12:40～14:00	第2会場	特別企画15 日本赤十字看護大学附属災害救護研究所の活動
	12:40～14:10	第5会場	シンポジウム11 叡智の結集：国際緊急援助隊の多様な活動
	12:40～14:10	第7会場	パネルディスカッション37 水害対応

日にち	時間	会場	セッション名
2月24日（土）	13:40～14:40	第10会場	パネルディスカッション39 避難所・避難生活学会4　行政職の災害対応―避難所生活者と在宅避難者の安全確保
	14:10～15:10	第2会場	特別企画16 ISUTの取組と災害医療
	14:20～15:50	第4会場	パネルディスカッション32 災害時における遺族・遺体対応の諸問題
	14:50～15:50	第10会場	パネルディスカッション40 避難所・避難生活学会5　命を救い・繋ぐ法整備～避難生活と災害復興法学のすすめ

【注意事項】

・学術集会時に開催されるK単位認定講習については、指導医講習会は上限1単位まで、必須受講項目（共通講習）は上限3単位まで、選択受講項目（K単位講習）は上限3単位まで、となっております。
　各セッションの聴講自体に制限はございませんが、単位取得は最大7単位までとなりますのでご注意ください。
・セッション中にQRコードを投影いたしますので、お手元のスマートフォン、タブレットで読み込んでいただき、Webフォームのご回答をお願いいたします。
・Webフォームの入力項目は氏名・所属、社会医学系専門委協会登録番号（日本災害医学会の会員番号ではございません）です。
・回答後受講票をダウンロードできますので大切に保管してください。
・各セッションの回答が必要です。
・スマートフォン、タブレットのご用意が出来ない方は会場スタッフへお申し付けください。
・専門医・指導医更新の詳細につきましては、一般社団法人社会医学系専門医協会ホームページをご確認下さい。

専門医更新：http://shakai-senmon-i.umin.jp/specialist/specialist02/
指導医更新：http://shakai-senmon-i.umin.jp/specialist/specialist03/

※現在、社会医学系専門医協会認定の必須受講項目（共通講習）を日本専門医機構での共通講習単位としては利用することが出来ませんので、ご注意下さい。

■第29回日本災害医学会総会・学術集会における「救急科領域講習」について

日本専門医機構　救急科専門医更新基準のうちの「救急科領域講習」の冒頭に「学会が主催する救急医学に関する講習会など」が挙げられており、本学会も主催学会として明記されております。そこで、本学術集会の下記講演につきまして、日本救急医学会教育・研修統括委員会による審査の結果、「専門医共通講習」として認定を受けましたので、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

下記の講演につきまして、講演会場の受付にて、「e医学会カード」による受講確認を行います。

〈救急科領域講習〉

日時：2月22日（木）17:30～18:30
会場：第5会場（みやこめっせ　B1階　日図デザイン博物館②）
演者：布施　明 先生（日本医科大学付属病院　高度救命救急センター）
　　『テロ等の不測の事態で展開される事態対処医療』

日時：2月24日（土）10:10～11:10
会場：第5会場（みやこめっせ　B1階　日図デザイン博物館②）
演者：石川　秀樹 先生（東京都立大学 健康福祉学部）
　　『査読者からみる災害医学領域における論文作成』

●講演会場における「e医学会カード」ご提示のお願い

上記の講演会場におきまして、「e医学会カード」の読み取りによる受講確認を行います。受講を予定されている救急科専門医及び今年度受験中の先生方は講習の際に「e医学会カード」をご持参ください。（「e医学会カード」を忘れた場合も参加・参加登録は可能ですが、できるだけ「e医学会カード」のご提示にご協力いただけますようお願い申し上げます。）

■日本医師会生涯教育制度学習単位

本学会は日本医師会生涯教育制度学習単位が取得できます。講演時間1時間で1単位（最小単位は30分で0.5単位）と、最短30分ごとに講演内容に対応した1カリキュラムコードを自己申告（申告者による自由選択）で取得できます。

受講を証明するもの

本会の参加証の写しを添付することで申告いただけます。

詳しくは日本医師会生涯教育制度online（https://www.med.or.jp/cme/about/index.html）をご確認ください。

■第 29 回日本災害医学会総会・学術集会　企画運営委員・プログラム委員紹介

企画運営委員・プログラム委員として、下記の皆様にご尽力いただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。なお、査読委員のご紹介は抄録集に記載させていただいております。ご協力に感謝申し上げます。

第29回日本災害医学会総会・学術集会　会長
髙階　謙一郎

企画運営委員（五十音順・敬称略）

石井　亘、上門　充、太田　雅博、岡本　貴大、柿本　雅彦、加藤　大策、北川　喜己、久保　達彦、計良　夏哉、近藤　久禎、清水　義博、芝田　里花、鈴木　教久、関根　和弘、高橋　昌、田中　博之、竹上　徹郎、寺澤　ゆかり、中田　敬司、中田　正明、中村　誠昌、中山　伸一、藤原　弘之、眞瀬　智彦、宮下　誠、森野　一真、山畑　佳篤、渡邉　暁洋

プログラム委員（五十音順・敬称略）

揚野　達也、阿南　英明、安部　史生、安藤　和佳子、石井　美恵子、植田　信策、奥山　学、大友　康裕、大桃　丈知、甲斐　達朗、加藤　渚、金澤　豊、河嶌　讓、川谷　陽子、清住　哲郎、小井土　雄一、古賀　聖典、島田　二郎、髙寺　由美子、高橋　礼子、中村　光伸、畑　倫明、林　宗博、張替　喜世一、藤江　直輝、布施　明、本間　正人、丸山　嘉一、村上　典子、森村　尚登、安本　友子、山口　芳裕、山下　公子、若井　聡智、若狭　真美

■日本災害医学会優秀論文賞・優秀査読者賞紹介

昨年度、学会誌に掲載されました投稿から厳正な審査を行いました結果、下記の皆様に決定となりました。2月23日(金)の会員総会時に表彰式を行います。また、学会誌発展のため、査読に大変ご貢献いただきました方より1名を表彰させていただく運びとなりました。ここにご紹介申し上げますとともに、厚く御礼申し上げます。

日本災害医学会代表理事　本間 正人
編集委員会委員長　七戸 康夫

〈優秀論文賞〉

- **中村 誠昌　長浜赤十字病院医療社会事業部／日本赤十字看護大学附属災害救護研究所**
  28巻1号　p19–27　調査報告
  「原子力災害時における要配慮者の地域特性—要配慮者の社会的包摂をめざした事前対策の必要性—」
- **古賀 佳代子　福岡大学医学部看護学科**
  28巻1号　p28–37　原著論文
  「熊本地震5年後における被災就労者の精神的健康の経時的変化」
- **新山 紗千　札幌医科大学附属病院高度救命救急センター**
  28巻2号　p61–68　原著論文
  「DMAT活動に対する情熱と職場環境の関連性」

〈優秀査読者賞〉

- **奥山　学　秋田大学医学部附属病院高度救命救急センター**

■秋田市水害対応

奥山　学
（秋田大学医学部附属病院 高度救命救急センター）

2023年7月15日に発生した秋田県豪雨災害では、3日間のDMAT活動で被災病院からの転院搬送や避難所評価等を行った。それらは学術集会等でも報告されるので、ここでは、そこに至るまでのなかなかスイッチが入らない私個人の行動を記したい。これが少しでも皆様の今後の活動の参考になればと思う。

小塚氏と歩いた道路

7月15日は数日前から災害級の大雨の恐れがあると予報されていた。県庁に訓練がてらDMATを入れて情報収集しようかと考えたが、その日は災害医療コーディネーターが県庁に入り県内の保健所とweb会議で情報共有を行う訓練をすることになったと聞いた。DMATの県庁入りはあきらめ自分は自院で診療することにした。一応は、県担当者に医療機関のライフラインに障害が生じた場合はDMATの出番になるかもしれないので連絡をくれるようにお願いしておいた。

7月15日。未明から雨は降り続いていたが、秋田大学医学部附属病院周囲の雨は激しいものではなく危機感を持つことはなかった。ところが11時40分頃、近くの太平川が氾濫しレベル3から一気にレベル5緊急安全確保が発令された。当院周辺も冠水し通行不能な道路が増えてきていたが数台の救急搬送を受けいれた。それでもなお私は、いずれ雨が止めば落ち着くだろうと楽観視していた。

午後になっても雨は降り続き、当院では夜勤職員が出勤できない問題が持ちあがっていた。DMAT事務局小塚氏からEMISで赤病院があると電話がきたので、県担当者に電話すると大分混乱している様子だった。来てくれとは言われなかったが県庁に向かうことにした。17時に病院を出て激しい雨のなか冠水した道路を走り県庁に向かった。あと10分遅ければ私の車も路上で止まっていただろう。途中で道路状況を病院に伝えた。以後当院は救急受け入れ不可を宣言した。

県庁周囲には被害がなかった。災害医療コーディネーターの他、担当課職員数名に加え課長、部長もつめていた。断水は1施設精神科病院のみ給水車で対応しているので支援不要、道路冠水による孤立5病院あり。EMISは警戒モードのままで災害モードにはしない方針と聞いた。DMAT要請されてないので私の立場は微妙であったが居場所はあった。

DMAT調整本部

転院搬送に協力してくれた自衛隊車両

床上浸水した病院から自家発電燃料補給の要望がきているが、自衛隊も消防も対応不可と言われ困っているというのが一番の問題だった。私が直接電話で聞いたところ「停電していない。6階に自家発電装置があり軽油で満タン入ってる。それでも5、6時間しか持たない。人工呼吸器患者4人、医師2人。」という状況であった。確かに、もし早めに停電になったら厳しいなと思ったが、停電の「可能性」にどこまで対応するべきか難しい問題であった。県庁にいても何も決まらないので小塚氏を呼び出し、浸水道路を歩いてその病院を目指した。ところが思ったより水の流れが強く、怖くなってすぐ

に引き返してしまった。その場で「病院の近くまで歩いて来てみたが軽油をとどけるのは危険が大きい、停電になった際には対応する」と電話して納得してもらった。その後24時、6時に電話で確認した。停電していなかった。

県庁に戻ると450床規模のDMAT指定病院から「もう少しで地下に浸水しそうだ、そうなると全館停電の可能性がある」と連絡がはいった。この「可能性」には対応する必要があると瞬時に考え、部長、課長に進言した。21時29分EMISを災害モードに切り替え、秋田県DMAT調整本部設置、秋田県内にDMAT派遣要請を出してもらった。

ただしDMAT調整本部には濡れた私しかいなかった。県職員2名が残ってくれ、DMAT事務局小早川氏がZoomで支援してくれたのが心の支えとなった。

水害で早期に災害スイッチをいれる難しさ。後から知ったことだが21時には秋田市に災害救助法が適用されていた。正常化バイアス。体感だけで判断してはいけない、秋田市内よりも川上の山間部に雨量が多かった。誰が決断するのか、日本の特徴である「なんとなく合意形成していく文化」は災害対応には不向きである。

■学生部会活動報告

【第1回日本DMAS交流会　開催報告】

日本災害医学会学生部会
代表　石津　舞桜

2023年10月13日（金）に第1回日本DMAS交流会がオンラインで開催されました。日本災害医学会学生部会（日本DMAS）は、全国に8支部・約360名の学生が在籍しており、支部ごとに勉強会やセミナーを開催していますが、全国的な活動は年2回のみで支部間の交流が不足していました。そこで、全国のスタッフ同士で交流を深めるためにこの企画が実現しました。

当日は全国から20名以上の学生が参加し、全体でのゲームや4–5人ずつに分かれての交流が行われました。参加者からは、「普段話す機会の少ない他支部の人と話すことができてとても良かった」「全国に同じ意思をもって活動している人たちがいることを実感できた」といった感想が寄せられ、次回の交流会の開催を希望する声を多くいただきました。

コロナ禍で対面活動が制限されたなか、オンラインを通じたこのような企画は、全国のスタッフとの結びつきを深めることや意見交換の機会となり、今後の日本DMASの活動の活発化への一助となると考えています。今後もこのような取り組みを継続していきます。

【中国支部活動報告】

日本災害医学会学生部部会中国支部（以下、中国DMAS）では、9月24日に災害時の食支援をテーマにセミナーを開催しました。中国DMAS会員15名が参加しました。講師には呉共済病院栄養科科長の沼尾雄一様をお招きし、災害時の食支援やJDA-DADの活動についてご講演いただきました。学生企画では避難所での食支援の課題やその対応についてグループワークを行いました。人々の生活に欠かせない食事は災害時においても非常に重要であるため、日頃からの備えと対応が大切であると学びました。

また、月に一回支部内での勉強会を行い、学生間でも日々知識を深めています。今後もセミナーや勉強会を通して、楽しく災害医療について学んでいきたいと思います。

【九州支部活動報告】

九州支部では11月11日に久留米大学病院にて第1回災害医療講演会を開催しました。参加者は弊支部内外より57名で

した。講師に久留米大学病院 高度救命救急センター 山下典雄先生、福岡県済生会福岡総合病院 救命救急センター 久城正紀先生をお招きし、救急医療におけるドクターヘリの概要、災害時の空路医療搬送についてお話しいただきました。学生企画では搬送手段・搬送先の優先順位を決めるグループワークを行いました。また、久留米大学病院ヘリポートにてドクターヘリの見学をさせていただきました。

参加者より「ドクターヘリを活用した医療活動や背景が理解できた」「実際の映像を見て現場の空気感を感じることができた」等の意見が得られ、第一線で活動されている先生方から貴重なお話を聞くことができ、参加者にとっても有意義な講演会となりました。日頃よりDMASをご支援いただきありがとうございます。今後も災害医療を楽しく学べるよう活動してまいります。

日本災害医学会雑誌28巻3号

●総説

福島第一原子力発電所事故により影響を受けた被災地における医療課題

宮川 明美，谷川 攻一
福島県ふたば医療センター附属病院

【目的】双葉郡は2011年の福島第一原子力発電所事故の影響を最も受けた地域である。我々はこの地域における医療体制の再整備に関する課題を把握するために、事故後の医療ニーズの変化と医療体制の変遷について調査した。【方法】福島県と地方自治体からの報告、双葉消防署からの救急搬送データ、ふたば医療センター（FMC）での患者データの分析を行った。【結果】事故後、2014年からの避難指示解除に伴い、救急搬送件数は年率約10％で増加した。事故後早期には労働関連事故や交通事故による外傷の割合が30％以上増加した。住民の帰還に伴って内因性疾患（呼吸器疾患が最多）の割合が増加した。2018年にFMCが開設されたが、60歳代の患者が多く、2019年には80歳代の患者の割合が著しく増加した。【考察と結語】事故後、継続して行われた除染事業や復興事業、および住民の帰還による人口統計の変化は観察された外傷や疾病構造と関連していた。

なお、本論文は以下の原著論文の和訳である。

Miyagawa A, Tanigawa K: Health and medical issues in the area affected by Fukushima Daiichi nuclear power plant accident. Int J Environ Res Public Health 2022; 19: 144.

https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.28.3_89

●調査報告

広域医療搬送における自衛隊航空機とDMAT医用電子機器との電磁適合性（EMC）基準の必要性

宮脇 博基[1)]，中西 茂幸[2)]
[1)]自衛隊入間病院
[2)]航空自衛隊航空機動衛生隊

【背景】政府は大規模地震時に自衛隊輸送機に災害時医療チーム（DMAT）を搭乗させ、多数傷病者を航空搬送する広域医療搬送を計画している。この際、医用電子機器と航空機電子システムの双方がお互いの発する電磁波により動作異常を起こす可能性があり、両者間の電磁適合性（EMC）の確認が安全管理上重要である。【方法】日本DMAT事務局および航空自衛隊航空支援集団に対し、固定翼輸送機と医用電子機器間のEMC基準について聞き取り調査を実施した。【結果】これまで72種類の医用電子機器のEMC確認を地上駐機中の実機を用いたカップリング方式で実施済だが、自衛隊保有の機器が主であり、DMAT保有の機器については少数のみの実施であった。EMC未確認の医用電子機器の飛行中使用は原則認められない。【考察】広域医療搬送を想定したEMC基準は未整備であり、実搬送時に支障がでる恐れがある。【結語】自衛隊輸送機とDMATの医用電子機器間のEMC基準の整備が喫緊の課題である。

https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.28.3_101

●調査報告

原子力災害発生時の勤務継続または出勤に関する病院職員の意識調査

春川 一樹[1)]，石井 美恵子[2)]，内海 清乃[2)]，相田 浩[1)]
[1)]新潟県厚生農業協同組合連合会柏崎総合医療センター
[2)]国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健医療学専攻災害医療分野

【目的】原子力災害時発生時の勤務継続または出勤に関する病院職員の意識調査の結果を分析し、病院業務を継続するうえでの課題を抽出する。【方法】A病院の全職員を対象に質問紙調査を実施した。結果は記述統計とχ^2検定により分析した。【結果】職員697人に配布し600人から回答を得た（回収率86.1％、有効回答率99.7％）。勤務継続または出勤できる64人（10.7％）、できない139人（23.2％）、条件付きでできる397人（66.2％）であった。勤務継続の意思について医療専門職とその他の職種の2群間に有意差が認められた。【考察】勤務継続の条件は安全と情報に集約された。2群間に有意差が認められたのは、放射線に関連する知識の違いや学習機会の有無が影響していると推察された。【結語】原子力災害発生時に病院の業務継続を行うためには、すべての職員を対象とした原子力災害に関する教育が必要であることが示唆された。

https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.28.3_107

●事例報告

ASEAN 災害医療連携強化プロジェクトの活動報告（続報）

髙田 洋介[1)]，池田 修一[2)]，喜田 たろう[2)]，勝部 司[2)]，
夏川 知輝[3)]，甲斐 聡一朗[4)]，久保 達彦[5)]
[1)]日本赤十字広島看護大学
[2)]独立行政法人国際協力機構
[3)]淀川キリスト教病院
[4)]兵庫県災害医療センター
[5)]広島大学

2016年に「ASEAN災害医療連携強化プロジェクト」が開始され、最初の3年間の成果を本誌に報告した。本稿はその続報として、2019年から2021年（以下延長フェーズ）の成果を報告する。2017年に「災害医療に係るASEAN首脳宣言」が採択され、延長フェーズでは、この宣言を2025年までに具体化する行動計画を立案し、それを推進する委員会の設立、地域連携演習をASEAN加盟国が持ち回りで実施する仕組み・手順の確立などのほか、災害医療に係る教育研究機関が参加する学術ネットワークの設立を支援し、ASEAN災害医療学術国際会議の開催や、災害医療に関する研修コースの標準カリキュラムの開発を行った。また継続して地域連携演習を開催しながら、新たに各国緊急医療チームの「包括的チーム情報」の活用および「医療の質の確認のための現場訪問」の試行を取り入れた。このように進化をしながら地域単位で能力連携強化に取り組んでいる点は世界的にも先進的である。

https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.28.3_115

●研究速報

大規模災害の被災経験の有無による理学療法専攻学生の災害に関する価値意識の違い

佐藤 亮[1,2)]，平山 朋子[3)]，中野渡 達哉[4)]，三宮 克彦[5)]，
田中 貴広[3)]，坪田 朋子[6)]
[1)]医療法人木星会山鹿温泉リハビリテーション病院
[2)]熊本県災害リハビリテーション推進協議会
[3)]学校法人藍野大学医療保健学部理学療法学科
[4)]福島県立医科大学保健科学部理学療法学科
[5)]社会医療法人寿量会熊本機能病院総合リハビリテーション部
[6)]合同会社リハビタ

https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.28.3_128

●短報

「病院行動評価群Ver. 4」による病院の被災状況の評価と対応の標準化

阿南 英明[1,2)]，近藤 久禎[3)]，山崎 元靖[1)]，高橋 礼子[4)]，
小井土 雄一[3)]
[1)]神奈川県庁
[2)]藤沢市民病院救命救急センター
[3)]日本DMAT 事務局　国立病院機構内
[4)]愛知県医科大学災害医療研究センター

https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.28.3_85

●短報

遺体の歯科所見採取におけるスキャン画像の有用性の検討
―災害時身元確認における口腔内スキャナーの活用―

斉藤 久子[1)]，中久木 康一[2)]，石井 名実子[3,4)]，飯田 哲也[5)]，
山田 良広[6)]，岩瀬 博太郎[4,7)]，清水 惠子[8)]
[1)]東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科法歯学分野
[2)]東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科救急災害医学分野
[3)]国際医療福祉大学医学部法医学
[4)]千葉大学大学院医学研究院法医学
[5)]一般社団法人千葉県歯科医師会警察歯科医会
[6)]神奈川歯科大学歯学部社会歯科学系法医学講座
[7)]東京大学大学院医学系研究科法医学
[8)]旭川医科大学法医学講座

https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.28.3_124

【編集後記】

日本災害医学会誌第28巻第3号を出版いたしました。

今号も多くの原稿を会員のみなさまよりいただき誠に感謝しております。また査読に当たられた評議員の先生方にも厚く御礼申し上げます。

災害医学研究においてしばしば用いられる手法として「アンケート」があります。前向き研究、コントロールスタディが困難なこの領域では、訓練、研修などの介入を行いその前後で比較し検証することは簡便で理解しやすい方法です。しかしいくつかの注意すべき点があります。1. 研修や訓練を終了した直後は労力との対価として評価が高くなる傾向がある、2. アンケート実施者（管理運営側）と参加者とで権威勾配があることが多い、3. 本来は介入前後ではなく介入の有無を比較対象とすべき、などです。また訓練や研修を改善させるための内部情報の収集であれば必要ありませんが、学術発表を前提とするならば、アンケート実施時にその旨を明示する、あるいは事後であれば組織HPなどでオプトアウトする、などの配慮も研究倫理的に必要になるでしょう。

これらのことを踏まえて、より正しい研究手法を用いて災害医療研究に取り組んでいただければ幸いです。引き続き本誌へのご投稿をお待ち申し上げます。

編集委員長　七戸　康夫

投稿規定はこちら：https://jadm.or.jp/contents/journal/
投稿システムはこちら：https://www.sasj2.net/jadm/welcome

日本災害医学会誌　編集委員会からのお知らせ

かねてよりご案内しておりました投稿・査読システムの切替につきまして、2024年3月31日をもって現在の投稿・査読システムの受付を終了し、2024年4月1日より、新システムで

投稿論文の新規受付開始を予定しております。

なお、3月末までに投稿された論文は継続して現システムにて審査をおこない、4月以降に投稿された論文は新システムで審査をおこないます。

切替にあたり、2つの投稿・査読システムによる審査が進行いたしますため、会員の皆様にはご不便をおかけいたしますこと、深謝いたします。

何卒ご承知おきくださいますよう、お願い申し上げます。

（学会雑誌に関するお問い合わせ先）
日本災害医学会誌　編集事務局
E-mail: jadm-edit@bunken.co.jp
〒162–0801　東京都新宿区山吹町332–6
パブリッシングセンター　（株）国際文献社内
TEL: 03–6824–9363／FAX: 03–5206–5332

事務局からのお知らせ

・2024年度会費ご納入のお願い

本学会の会計年度は1月～12月となっております。2024年度会費の振込用紙を同封しておりますので、5月31日までにご納入くださいますようお願いいたします。納入状況がご不明な場合はJADMメンバーズサイトよりご確認いただけます（入金からシステムの反映まで数週間お時間をいただきます）。

・JADMメンバーズサイト情報更新のお願い

JADMメンバーズサイトの情報更新忘れにより宛先不明で郵送物が届かない方が多数いらっしゃいます。変更の有無にかかわらず一度ログインの上、登録情報の確認をお願いいたします。

なお、ログインにお困りの場合はご遠慮なく学会事務局会員管理窓口（jadm-member@as.bunken.co.jp）までご相談ください。入会時点で必ずアカウントが作成されておりますので、新規でアカウントを作成することは絶対にお控えください。

〈メンバーズサイト〉
https://member.jadm.or.jp/

情報の確認：ログイン→会員メニュー「ユーザー情報の確認」
情報の変更：ログイン→会員メニュー「ユーザー情報の変更」

・MCLSインストラクター更新について

2024年1月～12月に更新期限を迎える方へ1月下旬に更新方法のご案内をメールにてお送りしております。対象の方はメールに記載の内容をご確認の上、更新のお手続きをお願いいたします。

編集後記

日本災害医学会NEWS LETTERを最後までお読みいただき、大変ありがとうございます。今回は開催が迫っている第29回総会・学術集会の直前情報、新たに創設された日本災害医学会優秀論文賞、そして優秀査読者賞の紹介、2023年7月秋田県豪雨災害の現地からの報告、学生部会活動報告などNEWS LETTERの機動性を活かしたタイムリーな内容をお届けしました。No. 7を迎えた本誌が学会員の皆様にとって情報発信・共有の場として今後益々必要とされるよう、一層の充実を目指して参ります。学会員の皆様方には、是非とも引き続きのお力添えをよろしくお願いいたします。能登半島沖地震支援の真っ最中ではありますが、だからこそ、そうだ　京都、行こう！

【広報委員長　高橋　昌】

訃報

本学会名誉会員・金沢医科大学救急医学講座の和藤幸弘先生が令和5年11月13日に永眠されました。

和藤先生は、長年、本学会の災害調査評価委員会委員長・担当理事を務められ、新潟県中越地震・尼崎JR脱線事故をはじめ、複数の報告書の作成にご尽力されました。

また、東日本大震災の翌年である2012年に本学会第17回総会・学術集会の会長を務められ、震災後から初めてとなる学術集会として多数の演題を取り纏めされました。

消防学校における救急隊員の育成や病院実習における生涯教育にも尽力されており、石川県メディカルコントロール協議会の会長として、プロトコルの策定や、救急業務の事後検証体制の整備への貢献が評され、総務省より令和4年度救急功労者として表彰されたところでした。

ご生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

山本保博・甲斐達朗・小井土雄一

2024年2月1日発行
発行所：一般社団法人　日本災害医学会
〒162–0801　東京都新宿区山吹町358–5
TEL: 03–6824–9396　FAX: 03–5227–8631
E-mail: jadm-post@as.bunken.co.jp
WEB: https://jadm.or.jp